西瑳 110 探訪

宝塔さま

飯塚を歩く

講中からの塔婆があげられた「宝塔さま」

飯塚区（豊和地区）では、地名が示すように飯を盛ったような塚（古墳・円墳）が多く確認されています。今は消滅しましたが、ふれあいパーク八日市場近くの関向古墳や開畑となった柳台遺跡、多古田遺跡などは市内の代表的な古代遺跡です。

干潟八万石に面した大利根用水西幹線に沿った道路から丘陵の集落に通じる丁字路に高さ1メートルほどの宝塔さまと呼ばれる石塔があります。

飯塚区には現在3か寺の日蓮宗寺院があり、この地域に日蓮宗の信仰が広まったのは1410年代以降とされています。

宝塔さまは正面に「南無妙法蓮華経」と題目が刻まれていることから、題目塔とも言われます。宝塔とは仏教の言葉で、宝で飾られた塔を意味し、この題目塔をあつく信仰したことで「宝塔さま」と呼ばれるようになったのでしょう。

石塔に刻まれた文字を見ると、1837年7月に飯塚村の「境女人中」と「新田女人中」により立てられたことが分かります。女人中とは子授け・安産などを祈願する女性の集まりのことで、地域によっては「子安講」などと呼んでいます。この石塔は「難産除け」を願い経をあげ、「施餓鬼供養」のために立てました。

日蓮宗寺院の場合、子授けや安産は「七面大明神」や「鬼子母神」、子安様への祈願が広く行われます。

同様の祈願を真言宗や天台宗寺院の地域では、観音さまや地蔵さまを信仰します。そして出産で亡くなった女性の霊を弔うため「流れ灌頂」という儀式が行われました。

この宝塔さまが立てられた場所が江戸時代に干拓された椿新田の総堀川の側であり、流れ灌頂と同様に考え立てたのでしょう。1837年ごろは全国的に冷夏で凶作による米不足など「天保の飢饉」があり、飯塚村でも出産で亡くなった人があったのかも知れません。

旧八日市場市域の日蓮宗寺院の地域で同様の供養碑は、大寺・長福寺境内の1791年に同村の「上宿、寺谷、助右衛門坂子安講」が立てた題目塔があるだけです。

飯塚の宝塔さまには現在でも、「多古田・米持」「湊・貝乱坊」「谷・古屋」「第一」「第二」「境信徒会」などの講中が彼岸や施餓鬼会に塔婆をあげています。

（元 市職員・依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班 ☎73・0080